



7/1～7/7 長崎っ子の心を見つめる週間 ～ご来校いただき感謝申し上げます～

7月1日(火)から昨日7日(月)までを「長崎っ子の心を見つめる教育週間」と位置づけ、様々な教育活動を実施させていただきました。保護者の皆様、地域の皆様方には事前に案内を差し上げ、ご自由に学校の様子を参観いただくようご連絡させていただいたところです。

7日の土曜日は特に多くの皆様にご来校いただきました。お忙しい中本当にありがとうございました。5校時の道德の授業は、各学級で命について学ぶ授業を設定しました。1年生は「決断！骨髄バンク移植第一号」、2年生は「命を見つめて」、そして3年生は「臓器提供」という内容でした。いずれも現実に関わったことであり、命の尊さがテーマとなっています。各学級担任の先生たちもどのように授業づくりをするか事前準備に生徒たちはその状況でどうあるべきかなど、「自分だったら」と考えを深めたようです。

その後の学年・学級PTAは、それぞれ生徒たちの様子についての報告、夏休みの過ごし方についてのお願いなどをお伝えしました。改めて配布資料の内容をご確認いただきたいと思います。

夏休みには、面談を計画させていただいていますが、もし何かご心配事などありましたら、学級担任までご相談いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

7/1(火)校長講話

この日の6校時、時間をいただき、私の方から講話をさせていただきました。大きく「命の大切さ」と「思いやりの大切さ」について話をしました。

まず、生徒の皆さんには「大切な人が突然命をなくしたらあなたはどのようになると思いますか？」という問いを投げかけました。7月1日は、22年前に長崎市で悲惨な出来事が起こった日です。そのことにも触れながら、「なぜ命は大切なのか」を考えもらい、そして本当に命を大切にしているのか、普段の生活を振り返ってもらいました。

そして、東日本大震災に関する内容にも触れさせていただきました。実は、私は昨年、長崎市内の中学生と被災地である福島県のいわき市を訪れました。そこで見たこと、感じたことを生徒たちに話しました。「本当は未来があったはずなのに・・・」「将来したいことがあったはずなのに・・・」そのような思いを感じ取ってもらえればと思い、話をしました。

後半は、自他の命を大切にするためには「思いやり」が大切であることを改めて伝え、「思いやりとは、どのような行いをいうのでしょうか？」と問いました。これまで、私は始業式や入学式をはじめ、幾度か講話の中で「思いやり」に関する話をしてきました。周囲の人とコミュニケーションを図るうえで、「思いやり」を持つことは大切だと私は考えます。そうすることで、よりよい雰囲気をつくり、多くの笑顔を生むことになるからです。私自身も、周りの人々から助けられたり、励ましの言葉をもらったりしたことが大きいのかもしれません。



生徒の皆さんは真剣に話を聞き、質問に対してしっかりと考えをまとめてくれています。現在、一人ひとりの分に目を通していただいているところです。それぞれコメントを書いて返したいと思います。

7/8(火)デートDV 防止教室

3・4校時、2年生がNPO 法人 DV 防止ながさき、長崎市男女共同参画推進センターアマランスから講師の先生方をお招きし、デートDV防止教室の学習を行いました。これは、男女間ということだけでなく、人として相手に対する接し方や態度が適切なものかを考えてもらうことに重きが置かれています。

講座の中では、生徒たちがある男女の会話を寸劇形式で演じる場面もあり、ふだん友人や周囲の人に対して、ふさわしい言動ができているか、相手に嫌な思いをさせてはいないかなどを振り返る機会になったのではないかと思います。記入してもらった講座の感想は、講師の先生方にも読んでいただく予定です。

7/8(火)被爆体験講話

5・6校時は、被爆体験講話を開催し、八木 道子様(やまみち)に講師を務めていただきました。八木様は本校の卒業生ということで、在籍当時多くの生徒たちが生活していたとお話もうかがいました。

八木様は、まず「最後の被爆者がなくなった時」が心配であることを話されました。その時はそう遠くない。だから、これからの世代のために、原爆のことを忘れられることなく引き継いでほしいという強い思いを私たちに伝えてくださいました。

昭和20年8月9日11時2分、あのとき原子雲の下で何が起きたのか？11時3分を迎えられなかった多くの死者がいたこと、何年たっても苦しみを与える放射能のこと、秒速500mといわれる爆風の威力、破壊された長崎のまちの状況、真っ赤な熱線がピンを溶かすほどの熱さであり、何か月も続くやけどを負わせるものであったこと、そして、「長崎を最後の被爆地に」という強い思い、現在ニュースで見聞きする戦争への懸念。

ご本人の経験だけでなく、名前がわからないまま亡くなった方々にも思いをはせ、長崎市の学校でもそのような児童生徒がいたことも、爆心地付近の地図を示しながらお話してくださいました。

戦争は起こしてはならない、核兵器は二度と使用してはならないという強い思いも話されました。また、「平和のバトン」を渡す、八木様はそのことを私たちに伝え、講話を終えられました。

8月9日が今年もやってきます。被爆して80年を迎えます。日本でも、この日がどんな日なのかわからない人はまだ多いと思いますが、少しでも多くの人がこの日の大切さを知ってもらえるようになればと思います。

力作ぞろいの学級新聞コンクール

現在、中央玄関付近に各学級の文化部生徒が作成した学級新聞が掲示されています。学級で実施したアンケートの結果や先生たちへのインタビュー、そして学校行事に関する記事など内容はさまざま。

私はひそかに、各学級のマスコットキャラクターがいいなあと注目しています。

それぞれの新聞をぜひじっくりと読んでほしいと思います。



原爆落下中心地碑



平和の泉

